

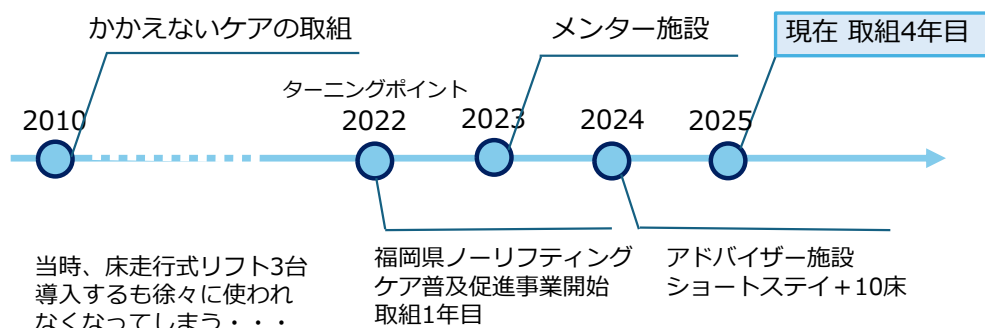
## ノーリフティングケア 4年目の変化



小さくともキラリと光る法人を目指して  
社会福祉法人 八女福祉会

特別養護老人ホーム八女の里

### これまでの歩み



## 2025年（令和7年度） 施設概要

長期入所定員／ショートステイ： 50床／30床

平均要介護度： 3.8

介護職員の常勤換算数： 22.4人

職員の平均年齢： 35.8歳

### 福祉用具の環境

スライディングボード： 7枚+α (Easy Glide M) + (手作り)

スライディングシート： 7枚 (手作り)

スライディンググローブ： 2枚 (手作り)

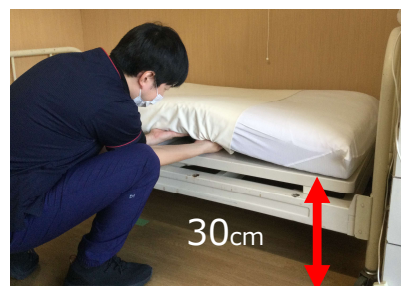
床走行リフト： 2台 (KQ-781)

スタンディングリフト： 1台 (Hug L1)

## ノーリフティングケア取組における当施設の課題

### 課題1

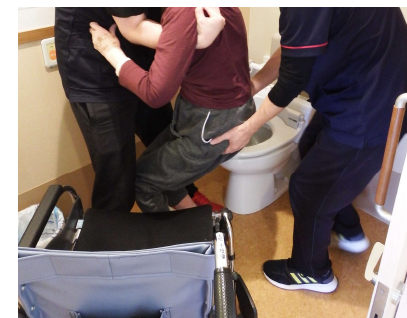
ノーリフティングケア取組開始時、高さ調整できないベッドは利用者全体の半数を占めていた。



リネン交換、体位交換等の業務における無理な姿勢による負担が多かった。

### 課題2

主にトイレでの排泄介助時、立位保持に介助が必要な利用者を抱え上げていた。

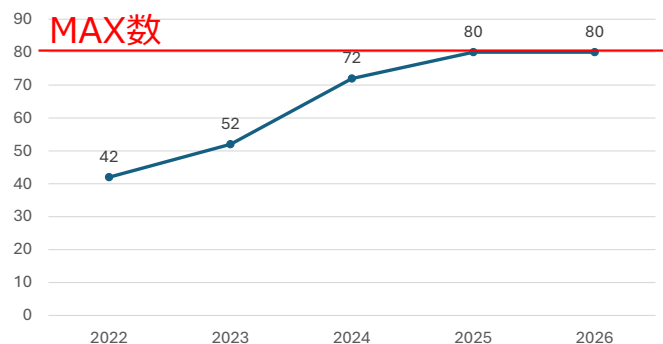


1名は抱え上げ介助、もう1名はズボンの上げ下ろし介助で、2名介助で実施していた。

## 福祉機器導入プロジェクト1

プロジェクト名	2022	2023	2024	2025	2026
電動ベッド 導入計画	10台 導入済	10台 導入済	10台 導入済	8台 導入予定	

電動ベッド台数



## 電動ベッド導入による高さ調整時の姿勢変化

Before



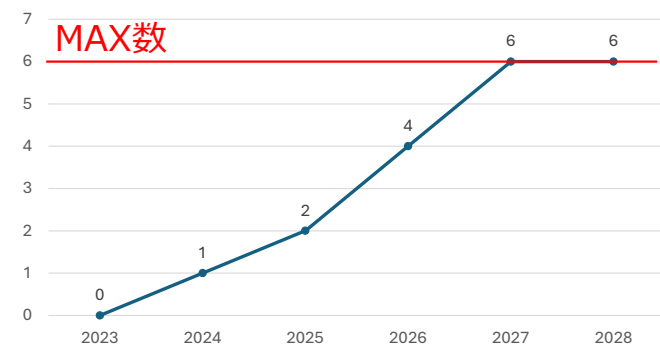
After



## 福祉機器導入計画プロジェクト2

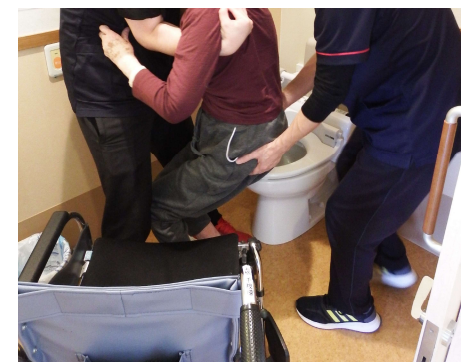
プロジェクト名	2023	2024	2025	2026	2027	2028
スタンディングリフト 全フロア普及計画		Hug1台 レンタル	Hug2台 導入予定	Hug2台 導入予定	Hug2台 導入予定	

Hug台数



## スタンディングリフト活用による抱え上げ負担の変化

Before



職員2名介助 抱え上げあり

After



職員1名介助 抱え上げなし

- Hugを選んだ理由
- ・操作手順がシンプルで、立位まで約1分程度で可能
  - ・クッションフロアでの操作性軽い
  - ・リモコン操作により後方からのズボン等の着脱しやすい
  - ・立位保持による機能訓練の機会となる



## その他の取組1 手作りのボード、シート、グローブ

### ◆手作りボード

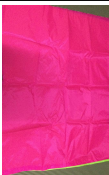
(※転落のリスクが伴うため、もし使用する際は安全性を各施設で判断をお願いします)

- ①ブラダンを470×470mm程度に4枚カットする。
- ②強度を強める為、内部補強材方向が互い違いになるよう2枚ずつ重ねて、右写真のように長方形となるように4枚並べる。
- ③折りたたみできるように中央と周囲を養生テープ等で固定する。



### ◆手作りシート

- ①ナイロン生地を2枚用意する。
- ②2枚のナイロン生地を平行に2辺だけ縫い合わせる。
- ③縫い代が見えないように全体を裏返す。

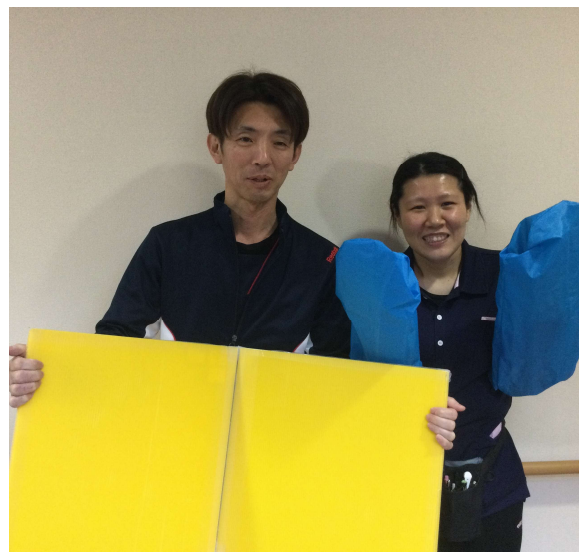


### ◆手作りグローブ

- ①ナイロン生地を550×550mm程度にカットする。
- ②一边を端から3cm程度折り返しゴム紐を通せるように縫い合わせる。
- ③縫い合わせた折り返しが外側になるよう半分に折り、折り返し側が入口になるように袋の形に縫い合わせる。
- ④ゴム紐を通して結んだら、縫い代が見えないよう全体を裏返す。



## その他の取組2 施設内部研修



元々腰痛持ちで、腰痛の辛さを知っている2人  
今年度の研修を受講し施設内での職員教育担当に

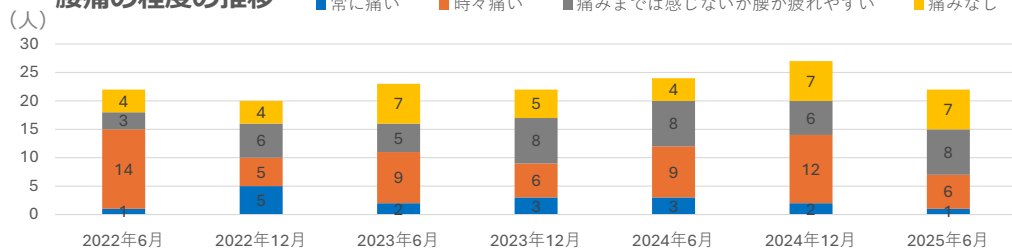


法人内他事業所との研修等も

## 介護職員腰痛アンケートの結果

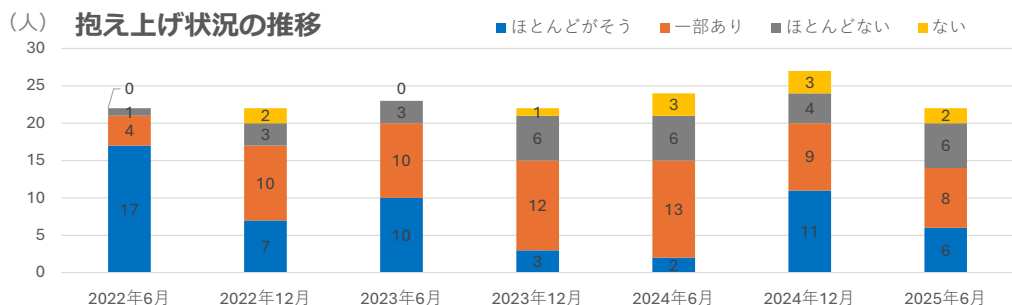
### 腰痛の程度の推移

■常に痛い ■時々痛い ■痛みまでは感じないが腰が疲れやすい ■痛みなし



### 抱え上げ状況の推移

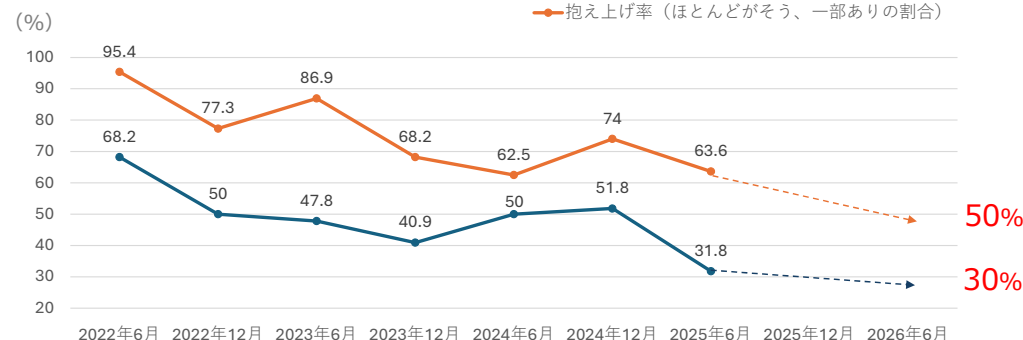
■ほとんどがそう ■一部あり ■ほとんどない ■ない



## まとめ

### 腰痛保持率と抱え上げ率

●腰痛保持率（常に痛い、時々痛いの割合）  
●抱え上げ率（ほとんどがそう、一部ありの割合）



・取組4年目、電動ベッド普及による職員の姿勢の改善により腰痛保持率が低下。  
・スライディングボード等の活用により、直近の抱え上げ率は63.6%と低下したものの、全体の半数を切る事はできていない。

スタンディングリフト普及により、**抱え上げ率50%以下**を目指す。

その結果、**腰痛保持率30%以下**達成へ。